

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度(令和5年度)で10回目となります。

中国四国農政局管内では161件の応募があり、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として7地区と2名が選定されました。

また、中国四国農政局では、応募のあった地区(者)の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」として12地区と1名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として23地区と1名を選定しました。

さらに、今回は「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」が平成26年から始まり、第10回を迎えた記念として、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例を募り、18地区と4名の応募がありました。

今年度、応募のあった地区(者)の事例について、その地域の「農山漁村(むら)の宝」として広く発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にいただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページをご覧ください。

URL: <http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

令和6年3月

中国四国農政局農村振興部都市農村交流課



目次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」全国選定 及び 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 の取組概要	1
○ 応募地区一覧	5
○ 応募地区位置図	6
○ 応募地区の取組事例	7

第10回ディスカバー農山漁村(むら)の宝 全国選定



島根県大田市

大田商工会議所

グランプリ

★漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。

★大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



行列ができる飲食店のあなご天井と漁業者

島根県大田市

笠木 真衣

優秀賞

★平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。

★農地(5反)を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈イベントを開催。



糸紡ぎのようす



ヒツジの放牧風景

高知県大月町

大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

★地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

★地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



植樹祭



小学校での「製炭学習」

広島県神石高原町

株式会社BINGO

特別賞

★有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命を有効活用する取組。

★個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



処理された猪肉



ペットフード
プロモーション活動

愛媛県伊方町

朝日共販株式会社

特別賞

★フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同し、しらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

★バイオプラスチックトレイへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



しらす漁



藻場礁設置

高知県黒潮町

特定非営利活動法人
NPO砂浜美術館

特別賞

★4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

★砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受け入れを実施。



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ
防災学習プログラム

- ★ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを得る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ★水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消に取組。



国内初の「完全受注漁」に取り組む富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

- ★オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携で生産した果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高めるとともに、サステナブルな商工農福連携活動を実施。
- ★収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



オーナー不在の竹原市の令和5年 新ブランドぶどう園を再生 「果実なくリーむパン」

- ★地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ(惣菜)」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- ★1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



各催事では約15~20種のプリンを販売



ガイドブック「おでかけプリン」

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定



- ★沿岸漁業者(小型底曳網)が中心となり鮮魚を直売。平成25年から令和4年までの間、漁村市を28回開催。現在は年4回毎回1500人前後が来場。消費者と直接言葉を交わして魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食を普及。仲買と連携し、ふるさと納税返礼品としても提供。
- ★地元高校が市を課題研究の場とし、市の運営に協力。地元水産関係企業へ就職する生徒も。園児には売り場見学やタッチングプール等の食育も実施。



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

- ★永田集落農地・水保全管理活動組織を中心に行ってきた棚田のシバザクラ植栽活動、農村景観による都市との交流の広域展開、更なる地域活性化のため令和4年度設立。シバザクラ9万本、花桃500本を植栽。
- ★春に「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。SNS等で積極的な情報発信を行い4年度は約4,000人来場。関係人口増と地域活性化に効果。



各スポットにシバザクラ花絨毯と花桃が満開に



「シバザクラの里猿隠高原比田米®」販売中!

- ★日生町にて漁協、小中高生、消費者等が協力しアマモ場を再生。アマモ場や再生活動を海洋教育の土台とし、地域内外の学校や市民、様々な業種の人々が地域や世代、立場を超え共に取り組む。
- ★海洋プラチックごみも、子どもたちと拾い、どこから流されてくるか一緒に考え、ごみを使ったアート作品を作る。令和4年度の海洋教育と体験の参加者数は2,532人。



アマモ流れ藻回収



小学生による海ゴミの回収

カンキツスタンドオレンジ

- ★様々な柑橘が生産されている瀬戸田地区が抱える、生産者の高齢化、柑橘加工品の販売先確保等の課題解決の取組。
- ★地元の株式会社Stapleが令和4年7月から瀬戸田の柑橘を専門に扱うジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。農家と直接取引を行い現在23種類の柑橘ジュースを販売。令和4年度売上は10,800千円。
- ★取引生産者は3軒から10軒まで増加。店舗販売以外に広島市内や都内でのイベントに積極的に出店し、瀬戸田の柑橘をPR。



店舗で販売をしている
ジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と
共同開催をした
ジュースの試飲会

株式会社神東ファーム

- ★平成30年、神東地域振興協議会が地域おこし協力隊員とレモン栽培を構想中「後発組は希少価値の高い新品目で勝負」とマイヤーレモンを選択。
- ★栽培方法を習得後、同協議会の部会「レモンの会」を発足し、借り受けた耕作放棄地を開墾。行政の支援で(株)神東ファームを設立。
- ★地元銀行等の支援を受け、地元大手スーパーや老舗旅館など県内販路が定着。果汁100%の「そのまんまのマイヤーレモン」も今年から販売し千数百本が完売。令和4年度の収穫量は7t、売上は3,400千円。



11月頃のマイヤーレモン



小学生の農業学習

一般社団法人 そらの郷

- ★世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農山村のサステナブルな暮らしを体験する観光で、観光客増による所得向上、新たな雇用創出等地域活性化に取り組む。
- ★体験型教育旅行として、都市部中学生・高校生の受入家庭での農作業体験、収穫物の共同調理など農泊体験を商品化。
- ★農山村散策や農家での餅つきなどを組み込んだツアーによるインバウンド誘致が、「桃源郷」と称される農山村の風景や文化、地元農業者等のホスピタリティの面で高く評価されている。



伝統的な農作業
ツチアゲ体験



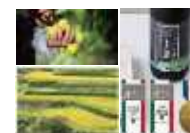
地元農家との交流
(餅つき体験)

株式会社本家松浦酒造場

- ★酒造会社が県内の様々な関係者と連携して行う取組。
- ★平成元年から原料を全て徳島県産にした日本酒の製造や平成24年から徳島県上勝町の棚田米を使用した日本酒、ゆこう使用のリキュールの製造の取組を通じ、生産者と連携。近隣の醤油蔵と連携した見学会を実施。令和4年度は直売所来場者15,876人、売上は26,000千円。輸出にも取り組む。
- ★大阪国際万博等のインバウンド需要を見据え、YouTubeなどで酒蔵地域周辺を案内する多言語化動画の配信やHPを作成。



酒蔵でのイベント
開催



棚田米やゆこうを
使った酒造り

一般社団法人さぬき市津田地区 まちづくり協議会

- ★津田地区の海辺を中心としたエリアリノベーションと農泊の推進。
- ★使わなくなった漁業倉庫や空き家への新規出店希望者の誘致、移住者支援を実施。令和4年に市と連携し地域おこし協力隊制度を活用した新規出店(ピザ店)をきっかけに出店増加。応募時点で4店が開店し今後も開店予定。
- ★地域おこし協力隊募集の際、採用者以外の応募者も協議会等がサポートし、家族を含む9名が市内に移住。



PORTO
PIZZA



空き家DIYの様子

愛媛県西条市

愛媛県立丹原高等学校 草花班

- ★地域を花木の一大産地とするため産官学民が連携し、苗の生産技術を確立する取組で、苗生産が不安定な品目の穂木～発根～出荷のプロセス構築の研究を同校が担当。
- ★同校の菊栽培技術を応用し平均19%の発根率が62%と有効性を確認。挿し穂の直径や挿し木時期による違い、地元JAと連携した生育環境での違いも調査。農家に還元可能な技術として成果は県東予地方局の「花木栽培マニュアル」に掲載され普及。地域では花木を主とした新規就農者も誕生。そのほか花木のPR活動も実施。



花木のPR活動



産官学民連携
プロジェクト成果発表

愛媛県宇和島市

企業組合津島あぐり工房「あすも」

- ★平成15年創業。地域の豊かな農水産物の加工品・惣菜など製造販売。地域農産物の需要拡大と、地域経済活性化による成長持続型活動を展開。
- ★平成24年「企業組合津島あぐり工房」として法人化。農家レストラン「あすも」をオープン。令和4年度の売上は42,000千円。スタッフが創業当初の4人から9人に増え、令和4年から廃校活用の新店舗に移転。
- ★平成30年西日本豪雨災害の教訓で始めた月一回の「ふれあいモーニング」は1日100人以上が来店。地域コミュニティの場に。



人と食、人と地域、
食と地域をつなぐ活動一覧



廃校教室を活用した農家
レストラン部門「あすも」

高知県香南市

井上ワイナリー株式会社

- ★高知の気候・風土に適したブドウ品種を選び、県内各地の生産者と一緒に栽培。県内各地の様々な料理と合うワインを醸造し高知の新しい食文化を提唱。
- ★平成24年に南国市で定植以来、栽培を5市町に拡大。耕作放棄地も再生。地元の老人クラブや高校生に収穫やラベル作りの手伝いを依頼。
- ★令和3年に自社醸造を開始、令和4年にショップを併設。ワインの試飲・販売、地域食材使用のグロスリー商品等販売。売上は令和4年度61,822千円。



地域の方々と共に
収穫作業



地元高知産ブドウを
使用したワイン

高知県津野町

農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

- ★住民の声をきっかけに、廃校となった旧小・中学校の校舎を活用し平成15年に設立した「森の巣箱」は、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた複合交流施設。
- ★安定経営のため、運営費用は各世帯の出資金、世帯毎に毎月「購買協定」を締結。宿泊施設で得た外貨も活用した、補助金に頼らない運営。施設職員(常勤1名、パート1名)以外住民も役割分担。
- ★イベント開催や修学旅行生受入も実施。令和4年度の売上は、コンビニ1,636千円、居酒屋1,282千円、宿泊施設3,039千円。



集落コンビニ



居酒屋

徳島県阿波市

寺井 稔

- ★平成24年に発足した阿波市の農業後継者グループ「GOTTISO阿波」の中心メンバーとして活動。
- ★農業や野菜の魅力発信、所得向上や農業人口増加を目指した活動、野菜の出張販売や広報を行い、地域のナスをブランド化。ナス好きの子供を増やそうと地元幼稚園や小学校で食育実施。
- ★グローバルGAP等を取得し2020東京オリ・パラの選手村へブランドナスを納品。それをきっかけに輸出、新たなブランド野菜育成に努める。



コロナ禍が明け
試食販売を再開



食育の授業

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) 応募地区 一覧 (高知県)

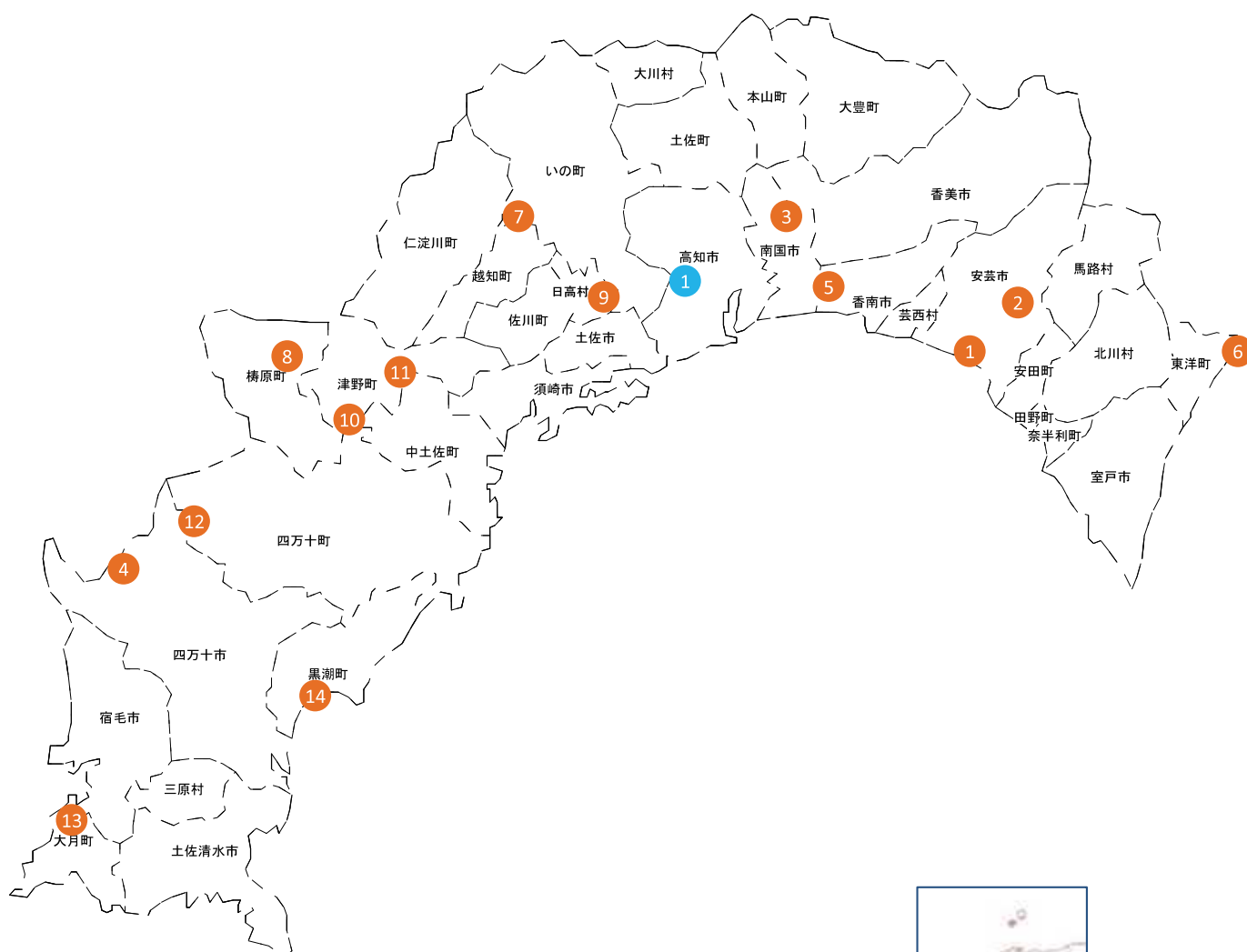
No.	選定地区	部門	市町村	地区名	該当する取り組み		
①		団体	安芸市	一般社団法人こうち絆ファーム 多機能事業所「TEAMあき」 就労継続支援B型事業所「TEAMいの」	農業	障害サービス 就労支援事業	農福連携
②		団体	安芸市	入河内大根のこそう会	農業	地産地消	伝統の継承
③	奨励賞	団体	南国市	一般社団法人エンジェルガーデン南国	農業	6次産業化	農福連携
④	奨励賞	団体	四万十市	株式会社大宮産業	農業	農村文化体験	地産地消
⑤		団体	香南市	井上ワイナリー株式会社	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑥		団体	東洋町	株式会社フクチャンFARM	農業	雇用	移住・定住
⑦	奨励賞	団体	いの町	明るい柳野を創る会	農業	移住・定住	高齢者の活躍
⑧		団体	梶原町	集落活動センターおちめん推進委員会	スマート 農林水産業	農泊	伝統の継承
⑨		団体	日高村	NPO法人日高わのわ会	6次産業化	女性の活躍	関係人口の創出
⑩		団体	津野町	農村交流施設「森の巣箱」運営委員会	多様な分野との 連携	農泊	関係人口の創出
⑪		団体	津野町	船戸活性化委員会「四万十川源流点」	農村文化体験	環境保全	女性の活躍
⑫	奨励賞	団体	四万十町	株式会社とおわ	地産地消	伝統の継承	女性の活躍
⑬		団体	大月町	大月町備長炭生産組合	林業	環境保全	食育・教育
⑭		団体	黒潮町	特定非営利活動法人NPO砂浜美術館	多様な分野との 連携	農泊	関係人口の創出

第10回記念賞応募地区

No.	部門	市町村	地区名	過去の選定実績
①	団体	高知市	高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部	令和4年度(第9回)選定 (特別賞)

応募地区位置図（高知県）

※ 青は第10回記念賞応募地区



～農福連携による地域共生社会を目指す～



ユニバーサル農園でのナス狩り体験



楮のへぐり作業・干し作業

経緯

- 高知県安芸地域は、県内で自殺死亡率が最も高く自殺対策が喫緊の課題であった。
- 高知県安芸福祉保健所が中心となり、自殺予防ネットワーク会議を立ち上げ、支援機関が連携し地域の課題を共有、その連携から平成26年に10年ひきこもりの生活困窮者をナス農家で就労させたことから農福連携が始まった。

取組内容

- 安芸市農福連携研究会や安芸市就労支援専門部会に参加。農福連携の普及啓発活動や定期的に生きづらさの理解を深める勉強会を開催。
- 矯正施設からの触法者の農業における地域社会奉仕活動を受入れ。
- いの町で「TEAMいの」をスタート。
- 農閑期前のハウスでナスの収穫体験による食育活動。
- 農福マルシェで農福商工連携をスタート。

活動の効果

- 地域を越えた広域的な連携が始まり、「障がい者」「引きこもり」「触法者」といった多様な人材が自立できる就農支援。生きづらさを抱えた人に対する理解を促進し暮らしやすい地域作りの促進。
- 労働力不足のナス農家から集荷し、障害者が袋詰めすることにより工賃が向上。農閑期には、いの町の伝統工芸である土佐和紙の楮へぐり作業を開始。農家の労働力不足及び後継者不足の解消にもつながる。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福商工連携を継続して取り組み地域商店街、住民との接点を増やし活性化を促進させながら地域理解も深めていきます。

住所・電話番号・SNS等

安芸市本町3丁目10-35 Tel:0887-37-9071

にゅうがうちだいこん かい
入河内大根のこそう会

～「入河内大根」で交流の輪を広げよう～



収穫された入河内大根



入河内大根を使った料理

経緯

- 入河内地区だけで栽培されてきた伝統野菜である入河内大根が、他の大根と交雑して失われる危機に直面。
- 平成18年、地域の農家を中心に入河内大根の栽培を通じた地域活性化のため、「入河内大根のこそう会」を結成。

取組内容

- 大学生と連携したほ場(1a)での栽培を通じ収穫体験や調理の体験交流など、まちとむらの交流を促進。
- 野菜ソムリエ等を通じて、県内有名ホテル、レストラン、料亭等へ提供。
- 地元の指定管理者の温泉施設と連携し、「入河内大根定食」をメニュー化し1月中旬～2月下旬に提供。
- 量販店や市場を通じた販路の拡大。

活動の効果

- 入河内大根を使った料理がメニュー化され、高知県を代表する伝統野菜としても知名度が向上し、地域住民の意識も変わり、入河内大根が地域の代表作物であると誇りを持つようになった。また、入河内大根が地域内外とのコミュニケーションの媒介として大きな役目を果たしている。
- 高齢化や人口減少の中、地区住民に種を無料配布し、約20人の住民が休耕田等を活用した約40aのほ場で入河内大根を栽培・継承している。

応募団体からのアピール・メッセージ

先人たちが引継いできた伝統野菜「入河内大根」を栽培し、後世に保存・継承するとともに、農業体験交流によって地域の活性化に努めています。

住所・電話番号・SNS等

安芸市入河内588(東川公民館内) Tel:0887-32-3031

奨励賞

いっばんしゃだんほうじん

なんこく

一般社団法人エンジェルガーデン南国

～自然の恵みに感謝し、優しさを育むガーデン～



グアバ葉を刈り取り中の利用者さん達



グアバ葉は一枚一枚丁寧に手洗い

経緯

○特別支援学校の教諭を32年勤めた代表が、自分が送り出した子供たちが、卒業した後に社会や会社の中で生きづらさを感じたり、引きこもったりする現状を目の当たりにし、もっとできることはないだろうかと考え、早期退職し就労支援事業所を開所。

取組内容

- 有機JAS認証自家農園において農福連携で栽培したグアバなどを自社で加工、卸売や販売などに取り組む。
- 平成23年にグアバ栽培開始。地元大学などで葉のエキスの機能性について研究発表。圃場(平成25年)と加工場(平成29年)で有機JAS認証を取得。6次産業化に係る総合化事業計画の認定を受ける(平成30年)。

活動の効果

- 令和元年より地元大学からインターンシップを受入。大学を通じJICAと連携して開発途上国向けの研修に協力。
- 地元小学校の農園見学、地元高校生徒会と協力しラオス学校建設活動への寄付金付商品開発。地元高校の授業でグアバ栽培と農福連携を学ぶ講座を実施。
- 女性就農者を増やすため女性用更衣室やトイレを整備。県と連携し県外の移住希望者の農園見学を実施し、令和4年には2名を社員として採用。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携で自然栽培したグアバ果樹は、葉や果実、果皮種や枝まで余すことなく活用し、様々な賞を受賞しています。また、高知県内の様々な福祉事業所や障がい者雇用をしている農園との連携も試みています。

住所・電話番号・SNS等

南国市亀岩1008 Tel:088-802-8801

e-mail: info@nishigawa-nouen.com

しまんと
4 高知県四万十市

農業

農村文化体験

地産地消

奨励賞

かぶしきがいしゃおおみやさんぎょう

株式会社大宮産業

～みんなでつくった大宮産業～



月1回の送迎活動の様子



大学生田植え体験学習受入れの様子

経緯

- 生活の拠点であったJAの店舗・燃料施設の廃止が決定。高齢者が多い地域であり、集落機能の維持が大きな課題となった。
- 地域住民自ら、事業継承委員会を立ち上げ、協議を重ねた結果、地域全体の80%にあたる108世帯が株主となり、平成18年5月に（株）大宮産業を設立し事業を開始した。

取組内容

- 地域で唯一の生活必需品を販売する店舗及び給油所の継続運営で住民の生活を守り、地域の活性化に取り組んでいる。
- 住民同士が支え合う仕組みづくりとして、灯油や生活用品等の配達に併せて独居高齢者の見守りを実施。
- 大宮地域で古くから栽培されていた大宮米の復活を通して、地域資源の見直しと地産外商に取り組んでいる。

活動の効果

- 移動手段がなく買い物が困難な高齢者には、自宅から店舗まで無料送迎を行い、地域住民の暮らしをサポートしている。
- 平成21年から県内大学生等の受入れを行い、田植え体験や地域調査等、共に地域課題に向き合いながら若者世代との交流を続けている。
- 減農薬栽培で生産した大宮米を、農家から買入れ、学校給食用に販売することで地元農家の所得向上に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

生活拠点として、地域イベントを計画的に開催し、地域の賑わいづくりや繋がりづくりに取り組めます。また、住民同士で支えあって安心して暮らせる仕組みづくりをこれからも目指していきたいと考えます。

住所・電話番号・SNS等

四万十市西土佐大宮1578 Tel:0880-53-2100



いのうえ

かぶしがいいしや

井上ワイナリー株式会社

～「高知でしかつukれないワイン」で高知の新しい食文化を創りたい～



井上ワイナリーのいち醸造所 & SHOP



地域の方々と共に収穫作業



地元高知産ブドウを使用したワイン

経緯

- 明治17年創業の井上石灰工業株が母体。
- 温暖で台風が多くブドウ栽培には向かないと言われる高知で、新しい産業と農業を立ち上げるため、平成24年に初めて南国市稲生でブドウ栽培を開始。
- 地域ごとの地ワインを造ろうと令和3年に「のいち醸造所」を建設し醸造を開始。

取組内容

- 高知の気候・風土に適したブドウ品種を選定し、現在は高知県内5市町の圃場でブドウ栽培を行っている。
- 高知県内各地の生産者と一緒に栽培し、醸造したワインで高知の新しい食文化を創る。
- 耕作放棄地を開墾したり、高知ならではのブドウ栽培とその最適地を模索中。
- 多くの高知の食材や料理とのマリアージュを楽しめるワインは消費者の皆様からも好評いただいている。

活動の効果

- 集落活動センターを拠点として老人クラブの方々や、地元の高校生に収穫・ラベル作りのお手伝いをいただくなど、持続可能な地域の活性化に寄与。
- 地の食材は地の飲み物と合うことは間違いなく、高知ならではの個性、味を追求したワインは消費者の皆様からも好評で、「日本ワインコンクール2023」にて銅賞を獲得し、味について評価された。

応募団体からのアピール・メッセージ

新たな地域でのブドウ栽培や、行政・企業・学校を含めた地域の方々を巻き込み、新しい生産方法・商品化の方向性を考えるとともに、「山北みかんワイン」のようなブドウ以外の果汁を使い高知の新たな特産品の商品開発を行っています。

住所・電話番号・SNS等

香南市野市町大谷1424-31 TEL:0887-50-6694 e-mail:tosa@inoue-winery.co.jp

株式会社フクチャンFARM

～移住希望者のニーズに沿った地域の受け入れ体制づくり～



2023ワーホリメンバー、内1名移住



元、空き家のワーホリ参加者シェアハウス

経緯

- 人口減少、高齢化、若者離れ等、町内の事業者においても「慢性的な人手不足」に陥っている。
- 後世に残さなければいけないものがあると分かっているが、次の行動に移せないのが現実である。
- 新しく迎え入れるもの(こと)の受け入れ体制を作ろうとしたことが、活動のきっかけである。

取組内容

- 平成30年度からワーキングホリデーの受入れを行い、収穫時の人手不足を解消。参加者を移住に繋げている。
- ワーキングホリデー参加者に空き家を改修して作ったシェアハウスを利用してもらい、補助金を活用する事で、実質参加者の負担はない。
- 移住希望者には当社の従業員がサポートし、就職先は「東洋町特定地域づくり事業バツゲン協同組合」に繋げている。

活動の効果

- 令和5年度に、家具・家電・レンタカー付きの「移住者お試し住宅」が完成し、希望者の受入れを開始する。(1棟→4棟に)
- 移住者に職探しのサポートとして「バツゲン協同組合」を紹介。同協会の職員に採用されることで、町内の事業者の人手不足問題が解消されている。
- 地域内の空き家問題や子供、若者が増えることで地域の活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

令和5年度中に「移住者お試し住宅」が完成し、希望者の受入れを開始します。今まで1棟だったのが4棟に増え、移住希望者へのサポートも強化していく計画です。今後の東洋町に活気が戻るのか？否か？ご期待ください。

住所・電話番号・SNS等

安芸郡東洋町大字河内362番地1 Tel:0887-29-3277

7 高知県の町

農業

移住・定住

高齢者の活躍

奨励賞

あか やなぎの つく かい 明るい柳野を創る会

～経済活動で地域を元気に！新しい取り組みにチャレンジ！～



ふれあいの里柳野の直販・地元農産物



集落活動センター柳野の水車(そば加工等)



イタドリ皮剥ぎ

経緯

○平成7年、柳野地区の実態調査を実施、その結果、営農の継続や地域でのつながりの必要性、老後への不安など地域の人々が抱える課題が明らかになった。これを受け、地域で集まる場や機会を増やし、高齢者にもできる農業の導入等のため、平成8年2月に柳野地区住民で組織する「明るい柳野を創る会」を結成した。

取組内容

○ふれあいの里柳野(集落活動センター柳野)では、直販所と食堂、地元農産物や加工品の販売を行っている。
○地元産のそばを水車で挽いたそば粉の販売や、そばの加工品(まんじゅう、おやき等)製造販売、そばがきの提供を行っている。
○太陽光発電の売電
活動資金の安定的な確保や支え合い活動の財源とすることを目的に、太陽光発電施設(太陽光パネル98枚)を整備した。

活動の効果

○集落活動センターによるイベント開催により、住民の集いの機会も増え、地域のつながりがより深まっている。
○空き家を活用したI・Uターン移住者の呼び込みにつながり、高齢化率が下がっている。
○太陽光発電の売電収入から、年間24回の配食サービス、買い物券、買い物の無料送迎への支援に充てている。

応募団体からのアピール・メッセージ

集落活動センター柳野の加工場の改修が完了し、これまで以上にイタドリ等の地域農産物を使った加工品を製造・販売をしていきますので是非お越しく下さい。

住所・電話番号・SNS等

吾川郡いの町小川柳野大黒田2482 Tel:088-868-2148 <https://yanagino.studio.site>

「ふれあいの里柳野HP」

しゅうらくかつどう

すいしんいいんかい

集落活動センターおちめん推進委員会

～「できる事から始める」を合い言葉に！～



梼原町内の河川へアメゴの稚魚を放流



特産品づくり 親子ピザづくり体験

経緯

- 集落では町指定無形民族文化財の廿日念仏踊りが420年に渡り踊り継がれているものの、今後、高齢化・人口減少が進めば、伝統芸能の断絶・集落消滅が現実味を帯びてきた。
- 当地区に長く住み続けるために、「できる事から始める」を合い言葉に、集落機能の維持と自立した集落運営を目指して活動を始めた。

取組内容

- 交流の里づくり部会、特産品づくり部会、産地づくり部会（集落営農組合）、アメゴ養殖部会、地域継承部会、及び新聞配達業務の5部会＋1業務の活動を推進し、住民の負担軽減を図り、住みやすい集落づくりに取り組んでいる。
- アメゴ養殖事業は、ICT技術を活用したスマート養殖により、従業員の負担軽減を図り、かつ、データ蓄積により、効率的で安定的な養殖事業を目指している。

活動の効果

- 菊芋のチップスなどを新たに開発・販売し、地域の食材を有効活用することで地域経済に貢献。令和4年度の売上げは前年に比べて10%以上の増収となった。
- 廃校小学校を活用した宿泊業務では、学生の宿泊料金を一般の半額に設定し、BBQ用の炭焼き体験や五右衛門風呂焚き体験など、多くの人に訪ねてみたいと思ってもらえる工夫をした結果、集客力が向上し、冬季を除いて、学生の合宿、企業研修、観光等の利用者が大幅に増え令和4年度は1,900人を超えた。

応募団体からのアピール・メッセージ

私達の活動の目標は、いつまでも住み続けることができる集落づくりである。少子高齢化など地域の課題は多くあるが、「できる事から始める」を合い言葉に集落の存亡を賭けて活動している。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡梼原町田野々1285番地 Tel:0889-68-0888

越知面遊友館のホームページ

ochimen-yuyukan@mm.pikara.ne.jp

えぬぴーおーほうじんひだか

かい

NPO法人日高わのわ会

～「できる人が できることを できる時間に」～



規格外のトマトから生まれた加工品と仕上げ作業

移住者と記念撮影、共に頑張っています

経緯

○トマト農家の手伝いに障害者とペアで作業に行った。その際、規格外品が大量に捨てられており、廃棄にかかる費用がかさんでいる現状から、そのトマトを使ってパスタを提供したところ好評だった。パスタを食べたお客様からソースを求める声に応じて、平成18年から加工品の開発を始めたことがきっかけ。

取組内容

- 行政の縦割りを横につなぐパイプ役として 大小30近くの事業を展開
- 農家の困り事解決
- お母ちゃん達の活躍の場の提供
- 障害者の就労訓練
- パスタソース等加工品の製造・販売
- 公共施設の活用
村は、使われなくなった公共施設(旧給食センター)を加工場として活用できるように整備した。

活動の効果

- 平成18年から加工品を開発し、農家からの買取り量が増え外販にも力を入れ、商品のブラッシュアップや販路拡大に成功、農家の収入アップに貢献。
- 「オムライス街道」での共通素材として、商品開発したトマトピューレを活用したオムライスを提供し続けている。
- 雇用の創出では、加工部人員3人の雇用や障害者の工賃アップにつながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

外からの人を地域に受入れ、母親のように新しいチャレンジを支えていきます。日本のロールモデルになるべく日本を元気にしていきます。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡日高村沖名3-2 Tel:0889-24-4004

「日高わのわ会HP」

<https://wanowa-hidaka.com/>



のうそんこうりゅうしせつ「もりのすばこ」うんえいいんかい
農村交流施設「森の巣箱」運営委員会

～“夢のまた夢のはなし”がもたらした地域と暮らし“～



集落コンビニ



居酒屋

経緯

- 時代の変化や林業の衰退、子供の減少により学校は廃校、文化の灯が消え寂しさと不安が募る。「このままでは集落が消滅してしまう！このままで終わりたくない」と、高知県の集落再生パイロット事業を住民へ提案。
- 全員が、自分たちの生活と暮らしを守る集落の存続を希望し廃校舎を活用した取組を開始。

取組内容

- 住民の声をきっかけに、平成15年に廃校となった小・中学校の校舎を活用し、集落コンビニ、居酒屋、宿泊施設を備えた「森の巣箱」を設立。
- 設立当初は、安定経営のため世帯ごとに当施設での毎月の購入金額の目安を定めた「購買協定」を締結。現在は、宿泊施設の利用料収入等により購買協定や補助金に頼らない運営を実施。施設職員や住民が役割分担をしながら運営している。

活動の効果

- 廃校舎を活用した地域づくりが注目され、平成19年度に全国過疎自立活性化優良事例として総務大臣表彰を受賞。その後、視察や宿泊客が増加し、県内外からの来客者と住民との交流の場も多くなっている。
- イベントの開催や修学旅行生の受入れも実施。
- 閉鎖的だと思っていた集落が地区外との交流で社会の変化に順応する地域に変わったと感じる。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化等による集落の存続が危ぶまれている地域が連携しまちづくり活動に取り組む「津野町まちづくりネットワークfuu-hot」に参加し、ともに地域の未来を創造していきたい。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡津野町貝の川床鍋392-2 Tel:0889-40-1703

ふなとかっせいかいいんかい「しまんとがわけんりゅうてん」
船戸活性化委員会「四万十川源流点」

～「船戸地区のみんなあと、ここの自然、四万十川源流点がともに輝き、賑わい続ける集落を目指す」～



田舎こんにゃく作り体験の様子

左からおつまみ豆腐、田舎豆腐、おからパウダー 宿泊施設「遊山四万十 せいらんの里」

経緯

- 平成22年の小学校廃校を機に地域活性化の取組を開始。平成26年に、地域住民からなる船戸活性化委員会「四万十川源流点」を設立。
- 地域の観光資源である四万十川源流点を活かしたイベント等で地域内外との交流を重ねながら、平成30年4月に集落活動センターを立ち上げ、特産品作り、宿泊施設経営、生活支援、景観保全等の活動を開始。

取組内容

- 春は文化的景観地区の茶畑を生かした「茶畑ウォーキング」、秋は四万十川源流域の紅葉を楽しめる「四万十川源流点ウォーキング」を実施。
- お豆腐屋さんの味を復活させたい思いから3種類を商品化し道の駅などで販売（写真左）。
- 地元食材にこだわったランチビュッフェが人気の宿泊施設「遊山四万十せいらんの里」を運営。

活動の効果

- 地域で代々受け継がれてきた田舎こんにゃく作りや田舎豆腐作りを体験できるプログラムを造成。体験プログラムの参加者は100人を超えるなど、交流人口の増加につながっている。
- 集落活動センターふなとを開所したことにより、これまで実施してきた交流活動に加えて地域の困りごとの解決や景観の維持活動に取り組むなど活動の幅を広げている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後も、「四万十川源流点」を活かした体験・交流イベントにより交流人口・関係人口づくりを継続し、地域の魅力を発信し続けていきたい。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡津野町船戸1309-1 Tel:0889-43-9771

奨励賞

かぶしきがいしゃ

株式会社とおわ

～四万十食文化伝承！伝えていこうとおわのわ～



おかみさん市と道の駅若手スタッフ



旬の食材を使った郷土料理が大皿に豪快に並ぶ

経緯

- 四万十町十和地域の深刻な地域課題となっている「高齢化」「産業衰退」「地域コミュニティの衰退」等に立ち向かうべく、十和地域の住民が株主となり令和2年7月に「株式会社とおわ」を設立。
- 四万十の食文化を次世代に繋げていくために、地域の若者を積極的に雇用。（正社員7名の平均年齢は30代前半）

取組内容

- （株）十和おかみさん市と連携し、郷土料理を10～15種類楽しめるバイキングを開始。
- バイキングの発展形として、高知市や東京都での出張バイキングや、人気メニューの「原木シイタケのたたき」のタレの商品化、テイクアウトできる「バイキング弁当」を開発。
- 食文化や調理法を組織として継承するため、郷土料理レシピの書きおこしを実施。コロナ対策として小鉢スタイルを導入。これらの活動を道の駅を軸にして展開。

活動の効果

- 郷土料理バイキングは、令和2年度にコロナ禍で中止となったが、令和3年度から四万十流域バイキングとしてリニューアルし、令和4年度は3,000人を超える来客があった。
- バイキングを継続することで、地域の雇用の創出や地域で収穫した野菜を食材として買い取ることによる一次産業の活性化、四万十の郷土料理レシピの書きおこしを進めることにより食文化の継承も期待される。

応募団体からのアピール・メッセージ

「まああるくつながる四万十で」の会社コンセプトのもと、高齢化により継承が危ぶまれるおかみさん市の取組を組織として継承し、若い地域住民とともに新しい考え方を取り入れた持続可能な食文化を目指していきます。

住所・電話番号・SNS等

高岡郡四万十町十和川口62-9 Tel:0880-28-5421

Instagram: toowashimanto

Facebook: toowashimanto

Twitter: toowashimanto



おおつきちようびんちようたんせいさんくみあい
大月町備長炭生産組合

優秀賞

特別賞

～資源循環利用による持続的産業を目指して～



団体の構成・役割分担



小学校での「製炭学習」



植樹祭

経緯

- 戦後の燃料革命により木炭の利用は激減し、当町の炭焼き文化も淘汰された。
- 平成20年頃、豊富に分布するウバメガシ資源の有効利用に着目し、最も収益性の高い産業として、備長炭製炭業を位置づけ、地元の若者等と持続可能な産業を目指す挑戦を開始した。

取組内容

- 貴重な資源であるウバメガシを将来に残すべく、循環利用可能な「山づくり」、どんぐりを拾って育てる「苗木づくり」、育てた苗木を植栽する「植樹祭」の開催等、「人と自然の共生社会づくり」に取り組んでいる。
- 国、県及び町職員と連携し、地元小中高生の森林環境教育を継続的に開催。
- 持続的産業を目指し、300年以上の歴史を有する紀州備長炭生産者と交流を開始。

活動の効果

- 現在、地元の若者と若手移住者を中心に8名の製炭者が従事し、組合事務局で雇用している1名を含めた9名が備長炭産業で生計を立てている。
- ウバメガシ原木の伐採を担う森林組合や自伐林家の所得向上にも大きく貢献。
- 資源量を考慮した備長炭生産を行いながらも、平均約5,700万円(平成30年度～令和4年度)の売上げを維持。
- 海外への輸出も毎年1トン行っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

私たちの活動が将来、様々な分野に波及していくよう更に取り組みを加速させたいと考えています。

住所・電話番号・SNS等

幡多郡大月町弘見4163 Tel:0880-73-1633



とくていひえいりかつどうほうじんえぬぴーおーすなはまびじゅつかん
特定非営利活動法人NPO砂浜美術館

特別賞

～アート・スポーツ・防災×農山漁村で活力を～



Tシャツアート展



海の脅威と恵みを学ぶ:防災学習プログラム

経緯

- 砂浜美術館は「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」をコンセプトに、長さ4kmの砂浜を美術館に見立て、「Tシャツアート展」をはじめとしたアートイベントを開催。
- 砂浜を美術館に見立てる発想を他分野にも活用し、各取組において農山漁村との接点を積極的に構築。

取組内容

- 砂浜やその周辺エリアをフィールドに四季折々のアートイベントを開催。
- 砂浜に隣接したスポーツ施設で年間を通じて受入れている合宿・大会の宿泊・お弁当等の手配を砂浜美術館が町内の集落活動センター等へ一括して実施。
- 南海トラフ巨大地震発生時に、黒潮町は最大津波高34.4mの予測が公表される。この34.4mを地域資源にすべく「防災学習プログラム」を開発。

活動の効果

- スポーツツーリズムの宿泊数が、約1.2万泊(平成30年度)から約1.4万泊(令和4年度)に増加、防災学習プログラム体験者数は、4名(平成30年度)から約400名(令和4年度)に増加するなど、関係人口創出に寄与している。
- 大学と連携した黒潮町産業連関表の作成により地域経済の現状を可視化。経済効果が約240万円(平成23年)から約1.3億円(令和4年)に増大するなど、砂浜美術館を核とした新しい経済循環づくりに貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、地域経済の現状を可視化し、地域事業者と共有しながら連携を深め、ここに住む私たちだから知る魅力を発信しつつ、事業者も地域内の食材を積極的に活用することで、地元産の調達率の更なる向上を図り、地域の活性化につなげていきたい。

住所・電話番号・SNS等

幡多郡黒潮町浮鞭3573-5 Tel:0880-43-4915 Instagram:sunabi_nitari

記念賞
応募

こうちしょうぎょうこうとうがっこう

しょうひんかい はつ・はんばいそくしんぶ

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部

～ジビエ利活用で循環型社会の実現～



小学生と開発した浦ノ内スペシャルバーガー ジビエを利活用したペットフード商品 改良・他校との販売を目指す「鹿ジャーキー」

取組内容

- 高知県の地域課題の一つである野生鳥獣被害に目を向け、平成30年4月に設立し、活動を開始。シカやイノシシ肉をジビエとして利活用、商品化、販売、ジビエの消費拡大、森林保護活動を行っている。
- 選定後に発展させた取組として、小学生とともに地域資源を有効活用する取組、ジビエでペットフード商品化、他校とのつながり等がある。

前回選定後の情報発信の取組

- 選定後、Instagramフォロワー400人台から現在は635人に増加。
- 地元テレビ局が配信したニュースの動画の再生回数の増加のほか、活動発表依頼数、新聞掲載(Web記事を含む)件数が増加。
- 他校の新聞部からの取材依頼を受けるようになった。
- 地元放送局が特集番組を放送するためにジビエ商品開発・販売促進部を密着取材しており、全国放送も計画されている。

前回選定後に発展させた取組及び成果

- 地元地域の資源を「ジビエ」ととらえた須崎市立浦ノ内小学校5年生と共同商品開発。
- 森林保護への寄付金額の増額を目指して、昨年度より利益を上げるにはどうすべきかを考えたジビエ部員はペットフード商品化を決定。
- さらに自分たちでこの活動をより多くの人に知ってもらおうと全日本鹿協会主催の「シカ展2023」などでジビエ部が取組の活動発表を行った。その中で同じくジビエを取り扱い、地域活動を展開している高校生と交流しつながることができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

「何をやっても無駄なことはない。すべてがつながる日が来る」と先輩たちが後輩たちに引き継いできたことを継承し、ジビエで陸の豊かさを守り抜くため、ジビエ部は変わり続け、挑戦し続けます。

住所・電話番号・SNS等

高知市大谷6番地 Tel:088-844-0267

